

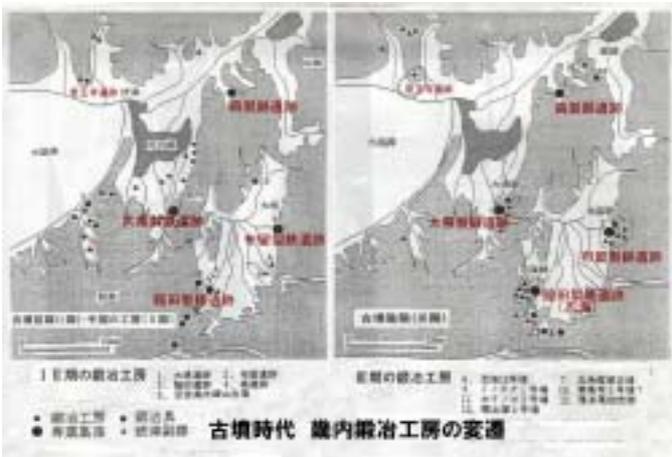
大和王権を支えた鍛冶工房 森製鉄遺跡を訪ねて

大阪府交野市 JR 学研都市線（片町線）河内磐船駅周辺

2005.7.27. katano.htm by Mutsu Nakanishi



古代肩野 古代の先進鍛冶工房森製鉄遺跡が眠る JR 河内磐船駅前と多数の古墳群がある背後の山並み



大和王権確立に大きな役割を演じた畿内鍛冶工房の変遷と北河内の鍛冶工房森遺跡のあった交野市

3 世紀から 5 世紀にかけて、大和王権が日本を統一して行く前夜、畿内には鉄の鍛冶工房集落が出現し、大和王権成立の大きな役割を果たして行く。河内の「大県」 大和の「布留」・「忍海」 そして北河内の「森」などの鍛冶専用集落で、ここには数多くの朝鮮半島からの技術系渡来人がいたという。

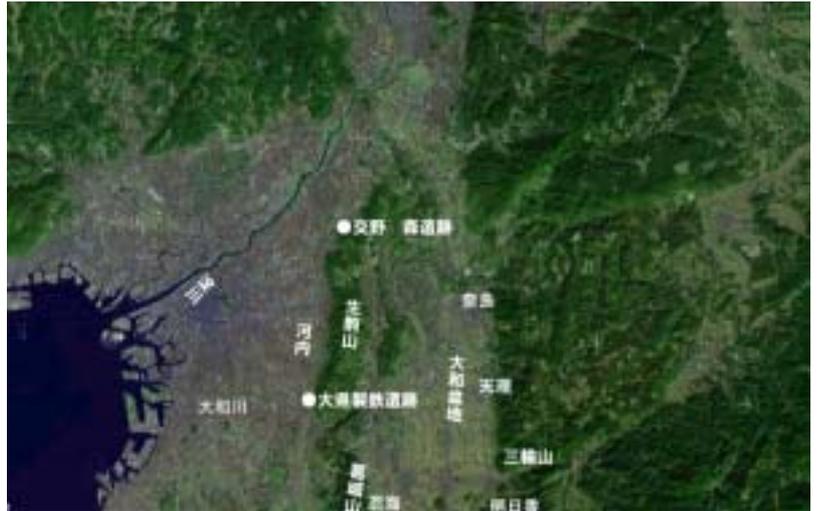
この古墳時代 日本ではまだ鉄の自給が出来ず、朝鮮半島の鉄素材に頼っていた時代 成立間もない倭王権にとっては朝鮮半島からの鉄の移入ルートの支配なら



びに国内での自給に向けた取り組みは日本統一への最重要課題であり、数多くの渡来の工人を取り込みつつ、畿内で専用鍛冶工房を展開する。

そんな鉄鍛冶技術の中心にいたのが、初期大和王権の中心にいて、出雲と深いかわりを持つ物部氏である。

物部氏の根拠地は大和の布留(現在の天理)であるが、九州・出雲から吉備・播磨そして畿内へと点々と鉄の足跡を残している。



大和と河内を隔てる生駒・葛城・金剛連山の一番北端の麓 この連山から流れ出た天野川が西を流れる淀川に注ぎ込む扇状平野部一体が現在の交野・私市。

数多くの古代遺跡や七夕伝説など古代の先進地である。

物部氏の始祖 ニギハヤヒが天上より磐船に乗って舞い降りたとの記紀伝説の地でもある。

この地に物部氏の一族 肩野物部氏が本拠を構え、鉄の鍛冶専用集落・大鍛冶工房を営んでいたという。

北河内の山裾 現在の JR 河内磐船駅周辺の山裾 古代 大和王権の成立に大きな役割を果たした大鍛冶工房の一つ「森製鉄遺跡」である。そして この遺跡の直ぐ背後に連なる生駒連山の北端には森古墳群・寺古墳群など製鉄遺跡と関わったと考えられる豪族肩野物部氏の古墳群が幾つかの枝尾根に広がっている。

8 世紀に作られた播磨風土記揖保の郡佐比の岡の条(現在の播磨 太子町)には北河内にいた渡来の鍛冶工人が優秀な鉄鍛冶技術を有して、播磨・出雲と交流していたことを示す記事があり、この北河内がその後展開されて行く倭王権確立に大きな役割を果たした鉄の郷「和鉄の道」が通っていたと考える。

「播磨風土記」揖保の郡 佐比の岡の条の記事

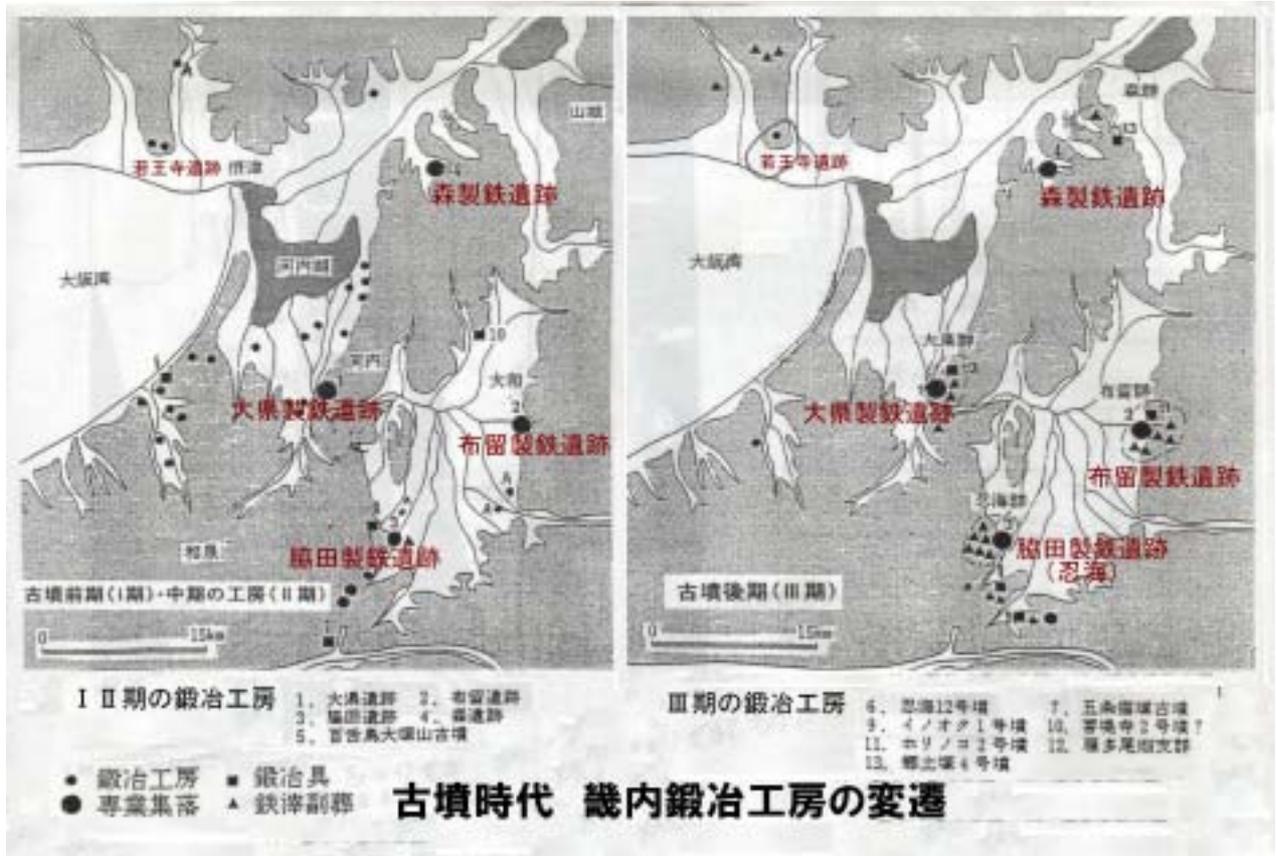


佐比と名づけたわけは出雲の大神が神尾山におられた。この神は出雲の国の人でここを通り過ぎるものがあると十人のうち五人をとり殺し、五人のうち三人を殺した。
そこで出雲の国の人達は佐比(鋤)を作ってこの岡に祭った。
だがどうしても快く受納されなかった。
そうなったわけは比古神(男神)が先に来たが、比売神(女神)が後になって来たので、この男神はここによく鎮まることができずに立ち去ってしまった。そんなわけで女神は怨み怒っているのである。
そうゆうことがあって後 河内の国の茨田の郡の枚方の里の漢人がやってきて、この山の付近に住んでこれをうやまい祭った。
そこでどうやらわずかに御心をやわらげ静めることが出来た。この神がおられるので名づけて神尾山という。また 佐比を作って祭った所をすなわち佐比の岡とよぶ。

出雲から吉備・播磨そして畿内の河内そして大和へと続く「鉄の道」は卑弥呼の邪馬台国そして三輪山の初期大和王権へと続く「日本誕生の道」であり、そこで大きな役割を演ずる出雲・吉備そして物部氏。まさに日本誕生の謎を解き明かす主役の登場である。

最近では邪馬台国が大和産鉄の地三輪山の麓纏向の地に成立し、朝鮮半島の鉄の支配を通じて、地方諸国を連合して、大和初期王権が成立していったと考える人が多くなっている。

北河内の森遺跡は河内の大泉製鉄遺跡 大和の布留遺跡・忍海 脇田遺跡などの畿内の大規模専用鍛冶工房とともに鉄の時代の展開と大和王権の確立に大きな役割を果たしたに違いない。



第五回歴博国際シンポ「伽耶の鉄と倭国」花田勝広氏講演資料より

そんな資料を読んでいるうちに、北河内の古代の大鍛冶工房 森遺跡の存在を知りましたが、興味は大泉や忍海・布留など河内・大和の心臓部に向いていて全く予備知識なしでした。

播磨風土記 佐比の岡の条の記事「枚方の里の漢人」を見て、森遺跡の地がわかり、それが出雲・物部氏と繋がっていること知って興味百倍。

しかも 地図をきっちり調べるとこの地は昔遠足などで、何度か訪れた私市・くろんど池周辺。

渡来人の郷 古代遺跡密集の地とおぼろげに磐船の名が頭に残っていた場所であるが、鉄との関係など思い巡らしたことなど全くなし。うかつでした。周辺 「星田」の町は渡来人と関係する地名で有名である。

「私市が和鉄の郷」 私にとってはまったくの不意打ちである。

「磐船」の名は知っていましたが、もう40数年前 「鉄の物部氏の始祖 ニギハヤヒが磐船に乗って天下ったところ」など思いも及んでいなかった。

この交野森にあった専用鍛冶工房集落は鉄の国内自給が始まる6世紀その前後 畿内にあって、大和王権の中心にいる物部氏が深くかかわった製鉄遺跡である。鉄自給の謎が解けるかも知れぬ。

とにかく私市に行ってみようと7月27日 一日中この界隈を歩いてきました。

1. 大和王権を支えた鍛冶工房 森製鉄遺跡 概要

交野市埋蔵文化財調査報告「古代交野と鉄」&「森遺跡」ほかより まとめ



森製鉄遺跡 発掘字の様子 交野市歴史民俗博物館展示より

森遺跡がある交野は大阪府の北東部 河内と大和を隔てて南北に伸びる生駒・金剛山系の北端の山裾 生駒山系から流れ出た天野川が西へ流れでる台地の上にあり、天野川は西に下って淀川に注ぐ。この台地の南には広大な大阪平野が広がる。淀川を遡って山城・近江・若狭を結ぶ道と河内・大和への結節点にあたる交通の要衝にあたり、古代より栄えたところである。



古代の鍛冶工房遺跡 森遺跡が眠る現在の河内磐船駅と森遺跡発掘地域図



森製鉄遺跡はそんな交野の生駒金剛の山並みが尽きる山裾の台地 現在の JR 河内磐船駅の周辺森南町にあり、主に弥生時代末期から古墳時代中世にかけて栄えた大規模な集落遺跡である。

ここからは4世紀から5世紀中葉の水田の水路群や、5世紀後半～6世紀前半の鍛冶炉跡など古代の鍛冶工房遺構、また、10～13世紀の三宅山荘園跡と考えられる建物跡・遺物なども見つかっている。

近年この森地区周辺の開発が相次ぎ、発掘調査から様々なことがわかってきた。

なかでも、平成7年から8年にかけて行われた JR 河内磐船駅北地区区画整理事業に伴う発掘調査は

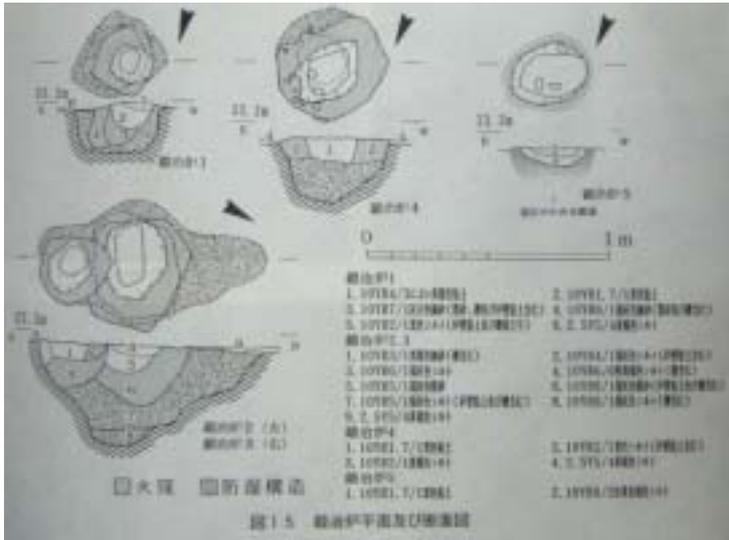


森遺跡鍛冶炉復元と出土した羽口

無大規模なもので、調査区計 8 箇所発掘面積 5390 m²に及びました。
 最も注目すべきは 5 世紀後半～ 6 世紀全般にわたり操業した大規模な専用鍛冶工房集落遺構が出土し、この地に大規模な鍛冶集団が居たことが明らかになったことです。



森遺跡より出土した鉄滓と鍛冶加工の痕跡を残す鉄塊



遺跡から出土した鍛冶炉

遺跡で出土した鍛冶炉すべては一旦土坑掘削後、使用済みの炉壁粘土や礫などを埋め戻しその上に火窟を築いている。

防湿構造上面は黄褐色シルトで整地している

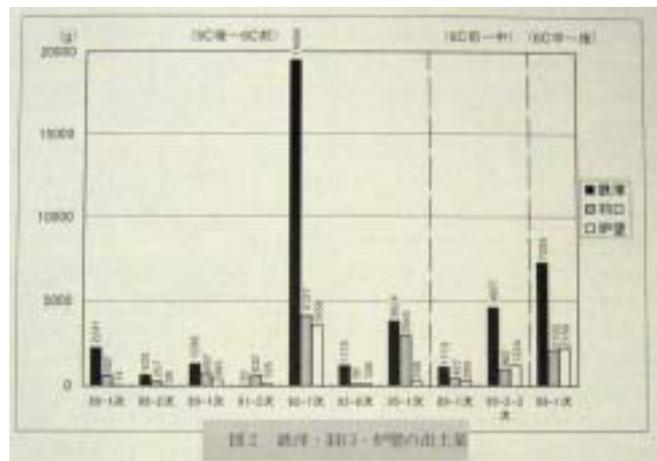
それまで水田が広がっていた場所に 5 世紀半ば急に鍛冶炉と共に大量の鉄滓や羽口・砥石など多数の鍛冶関連遺物や須恵器が出土し、大規模な専用鍛冶工房の出現が裏付けられる。

また、国内鉄製錬による鉄素材自給が明確になっていない時代に他の場所で鉄素材として製錬された鉄滓を含む鉄塊がこの工房に持ち込まれ、製錬鍛冶・鍛錬鍛冶の鉄加工が行われ、鉄器・鉄器加工素材の供給が行われ、その操業は 7 世紀初頭まで続いた。

また、出土した鉄滓や羽口など鍛冶関連遺物の多さから畿内でも大規模製鉄遺跡に次ぐ大規模な鍛冶工房が存在したと考えられている。



森遺跡の鍛冶工房遺構 95-1 次調査
 左下:鍛冶炉跡など鍛冶工房作業場
 右上:工房鍛冶工人の住居跡



森遺跡 鍛冶関連遺物の出土量と年代比較

この森遺跡からは古墳時代中期から 後期にかけての掘立柱建物 5 棟とそれに付随する溝や柵が作られている。これらの建物のうち 4 棟は森遺跡の東側で検出され、また西側では鍛冶関連の遺構・遺物が多数検出され、それらが同時期であることから、鉄生産の作業場と鍛冶工人の住居が分離していたと考えられている。

また、この森製鉄遺跡と同時代の古墳時代前期、中期から後期にかけて森周辺地の首長が葬られたと考えられる森古墳群、交野車塚古墳群が直線距離にして約 500 メートルほどのところにあり、この古墳の被葬者が鍛冶生産を掌握していたと考えられる。

この被葬者の確たる証拠はないが、多くの伝承や後の時代の文献などから類推して肩野物部氏と考えられており、物部氏がこの地の鍛冶集団を統括していたと見られる。

この肩野物部氏は岡山県津山周辺の古代鉄生産に関係していたと見られ、播磨風土記揖保の里の記事なども合わせ考えると古墳時代前期以来の出雲・吉備・播磨・畿内へと続く



「和鉄の道・出雲道」での物・人そして文化の森製鉄遺跡背後の山の尾根筋にある森古墳群

交流が日本誕生前夜の本流として浮かび上がってくる。また、交野周辺の「星田」の地名や播磨風土記揖保の里の記事に代表される渡来系の技術集団の存在にも注目せねばならない。



この森遺跡に限らず、5 世紀後半に畿内では大和や布留・忍海などの大規模専用鍛冶工房が突如出現する。そして、これらの鍛冶工房には他所で製錬された鉄塊がこの鍛冶工房に持ち込まれている。鉄滓などの分析から砂鉄ではなく鉍石系原料で製造された鉄塊が持ち込まれているが、鉄塊の製造場所はよく判らない。しかし、間違いなくこの時代に大きな鉄鍛冶の技術革新があり、それが大和王権の伸展と大きく関わっていると考えられる。

畿内の専用鍛冶工房の操業の開始時と重なる 5 世紀後半 日本国内では鉄製錬開始の確たる証拠は見付か

っていないが、急速な需要の高まりが、畿内での専用鍛冶工房を出現させた。5 世紀半ばに遡れる鉄製錬の候補場所としては鉍石原料が使われた北近江 砂鉄原料が使われた丹後遠所遺跡そして 吉備の北部地帯などが考えられるが、特定は出来ていない。また、朝鮮半島から鉄素材の鉄塊そのものが移入された可能性もある。

いずれにしろ ポピュラーに鉄の自給が始まるまでの間 朝鮮半島からの鉄の移入・鉄の自給の試みが大和・九州そして出雲・吉備など日本諸国の最大課題であった時代を経て、大和王権が渡来人を取り込みながらその覇権を握り、日本統一を成し遂げて行く。その過程で、大和王権の本拠畿内に興った鍛冶工房が鉄器供給や鉄技術の革新など重要な役割を演じながら、鉄の技術を各地に拡大させてゆくと共に大和王権による日本統一が完成する。

畿内の鍛冶工房に持ち込まれた鉄塊の解明もそんな日本統一の謎を解き明かす鍵の一つに違いない。「大和王権の中心にあってそんな鍛冶工房の展開に重要な役割を演じたのが出雲・物部氏でなかったのか」森遺跡と渡来人や物部氏との関わりや物部氏の日本各地の製鉄関連の足跡などを考えるとそんな構図が頭の中に浮かんでくる。

2. 古代 北河内の大鍛冶工房集落「森遺跡」周辺を歩く 古代鉄の郷 交野 森界限 walk 2005.7.27.



森遺跡周辺図



交野山傍示道より 交野・枚方の平野部眺望 2005.87.27.



森製鉄遺跡が眠る JR 河内磐船駅ロータリーと古代の里を示す石碑

「 金剛・生駒連山の西端 北河内 私市にある森製鉄遺跡は 河内の大泉製鉄遺跡と並び、大和王権が日本統一を成し遂げる前夜 日本各地に鉄を供給した畿内の大専用鍛冶工房集落。そして この鍛冶工房を統括しているのが この地に本拠を構える（肩野）物部氏であるらしい 」
大和王権の中樞で軍事・武器を掌握していた物部氏。
その豪族が具体的に鉄器製造にかかわっていた遺跡として鉄を通じた歴史が見えるかもしれない。
また 鉄自給の道のりが見えるかもしれない。
「鉄の6世紀」と呼ばれ、各地の古墳からは続々と鉄器が出てくる。
朝鮮半島からの鉄素材の供給から脱し、日本の鉄製錬が始まる時期と大和王権が日本統一を完成する時期がほぼ重なっている。その中味がどんな風であったのか・・・
邪馬台国から大和王権の確立へ 文字のない古代の謎がイメージをかきたてる

7月27日早朝 まったく地理的な予備知識無しに神戸を出て交野市へ。
私にとっては「私市」の名前の方がなじみである。高校時代に「私市 くらんど池 ハイキング」に出かけて以来 淀川沿いの枚方を通ることはあっても、もう随分足を踏み入れたことなし。
昔は田舎の片町線沿いであった淀川の西岸域 「大阪から京阪電車で枚方へ 枚方で交野線に乗り換えて私市へ」これが私の頭にあるコースであるが、今は JR 大阪東西線を経由する片町線が衣を変え大動脈学研都市線となり、住宅地として発展著しく地域の様相が一変している。
神戸からも JR で直通電車が走り、1時間30分程でもう交野である。
ほとんど高架上を大阪平野の広い市街地を東の壁生駒連山に向かって走り抜ける。 駅も新しくなり、新しい市街地が広がり、田舎臭さはもうない。生駒の山裾を北へカーブして、生駒連山の丘陵地をしばらく行くと交野市に入り、星田駅 そして 次が京阪交野線とクロスする河内磐船駅である。
この河内磐船駅の南 生駒連山の山裾磐船溪谷が物部氏の始祖ニギハヤヒが磐船に乗って舞い降りた伝承の地。鉄の物部氏の本拠地の鉄の郷に興味深深である。



古代の先進鍛冶工房森製鉄遺跡が眠る JR 河内磐船駅 左 駅の南側 右 駅の北側

生駒山の山裾側の南側のロータリーに出て、観光案内板を見る。

ここは古代の郷 昔歩いたくろんど池ほか生駒連山の山裾の史跡を巡るハイキングコースが幾つも設定されている。しかし、「森製鉄遺跡」の名前がない。改札へ戻って駅員に聞くが「知らない」という。

とにかく 観光マップ貰うが、不思議そうな顔である。

「森遺跡はこの河内磐船駅周辺のはず。 どこかに森遺跡の案内板あるはず」と探しましたが、なし。

ふっと駅でもらったイラストマップ見ると「河内磐船駅の吹き出しに森遺跡の名 駅から徒歩30秒」と書かれている。 どうもこの河内磐船駅そのものが森製鉄遺跡の中にあるらしい。



駅の反対側にも行って見るが、何にも無し。整備された駅前のロータリーがあるのみ。

どうも、片町線が学研都市線になる時に駅を含む駅前が整備され、その時に発掘調査され、遺跡は破壊されたのだろう。まあ 製鉄遺跡という何れも珍しいものもなくほかの製鉄遺跡と同様発掘調査が済むと破壊されてしまう運命。街の人からも忘れられてしまう。

日本誕生の重要な遺跡なのに・・・と思うのですが、それにしても遺跡案内板もなくとあって 駅のロータリーの端に小さなモニュメントがあり、この地が古代から続く「無垢根」「森」村で、「この周辺からは古墳時代の集落や鉄器工房跡などの遺跡が数多く発掘され、この時期 無垢根村は交野の中心地」と記載されていました。 やっぱり、この駅前が森製鉄遺跡の中心部である。



JR 河内磐船駅前ロータリーにある古代森村の地であることを示す石碑



河内磐船駅周辺 森製鉄遺跡 午後 交野文化財事業団で入手した資料「古代交野と鉄」より
大和王権を支えた鍛冶工房 森製鉄遺跡 概要

もう少し 森製鉄遺跡の痕跡を見たいが、駅前に居ても仕方なし。
 背後の交野山を中心とした生駒連山の尾根筋には森遺跡と同時代の幾つかの古墳群がある。
 駅前の直ぐ上の尾根筋には森製鉄遺跡を統括したと考えられる肩野物部氏の森古墳群が記されている。



とにかく 背後の山の尾根筋にある森遺跡と同じ時代の古墳群 森古墳群を歩いてから 交野の市街地にて、教育委員会か歴史民俗資料館に行って森遺跡の資料集めることにする。

駅前から東へ 山裾に向かって歩き出すと狭い路地の坂道が続く森南の集落が広がっている。
 集落の中に入れば、「森古墳群の案内標識があるだろう」と思っていたが、まったく無し。
 狭い路地が続く昔ながらの集落 観光地でないゆったりとした美しい家並みである。
 家から道端に出てきたお婆さんを見つけて「森古墳群へ行く道」を聞くと、さっき行き止まりで出てきた路地をそのまま行くのだという。
 「私有地なので今 道が荒れているが そこを登っていった山の上が遺跡。自信ないが行けないことはないでしょう」と。



河内磐船駅の東に広がる森南の集落 2005.7.27.

行けなくなったら戻ってもいいと路地に入って、土蔵の縁をすり抜けて、竹林の中の細い山道を登ってゆく。スタートから竹で「X」が組まれている。竹林を抜け、人気のない林の中の一本道を奥へ奥へと尾根筋に沿って登ってゆく。小さな尾根を横に見ながらの林でまったくどうなっているか判らないが、上り詰めればハイキングコースの道もあり、心配はない。



森古墳群へ登って行く山道 2005.7.27.

「遺跡は上り詰めた山の上」と婆さんが教えてくれたが、30分程で狭い尾根の上に出て尾根の上に道が続いている。やっぱり林の中であるが、コブが見える。ここがどうも古墳群の尾根らしい。こぶは判るのですが、林の中で古墳の形はよく判らない。



尾根筋の林の中に埋まる 森古墳群(1) 2005.7.27.

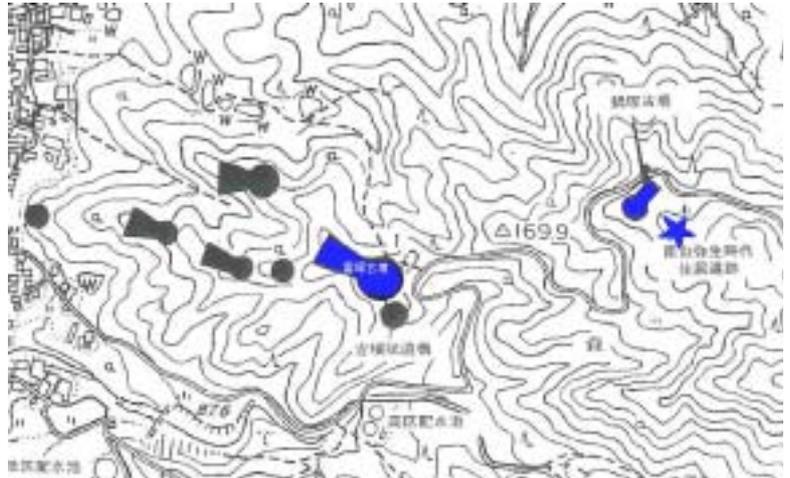


尾根筋の林の中に埋まる 森古墳群 (2) 2005.7.27.

後で歴史民俗博物館に行って、この森古墳群には 古墳時代前期 4 世紀中頃の古墳で 円墳 1 基と前方後円墳 5 基があり、この地の豪族肩野物部氏の墓ではないかと類推されるが、詳細は不明であることなどを知りました。

私のはっきり古墳とわかったのは一番奥の尾根の上にある雷塚古墳。

この古墳群の中で最も大きい古墳である。コブが非常に高く円墳とも思え不思議でしたが、それが古い前方後円墳の証拠と後で知りました。



森古墳群の地形図

資料によると全長 106m 後円部径 56m、前方部先端幅 32m、くびれ部幅 22m、尾根の地形を巧みに利用した前方部 2 段、後円部 3 段の古い形の前方後円墳。特に後円部に比べて前方部の幅が小さく、高さが極端に低い点、前方部が三味線のパチのように開いている点、墳丘部に埴輪や葺き石などが見られない点などが、前期古墳の中でもさらに古い部類に属するのではないかと見られ、大和の箸墓（女王卑弥呼の墓といわれる）とも同じ形。

一番古い形式の前方後円墳が古代の大鍛冶工房集落がある交野の後背の山裾にあり、それも大和王権の中核に居る物部一族と関係している。この地が大和王権と密接に繋がっていた証拠であろう。

大和王権はその初期から鉄と密接につながっている証拠でないか・・・

雷塚古墳から少しさらに奥に行くと幅の狭いドライブウェイに突き当たる。傍示ハイキングコースで示された道である。ドライブウェイを少し進むと眼下に交野から枚方そして淀川の向こうの天王山を正面に遠望する岩山に出る。この岩山に上って眼下に広がる大パノラマを見るとこの地が古くからの要衝後であったこと実感する。

この道を少しいった山中に弥生時代の高地性集落跡を示す標識があり、さらに 10 分ほどで、山中の集落傍示。下の交野 寺の集落から登ってきた古道「かりがけの道」が合わさってこの生駒の山を越えて大和へ。



傍示への道で 眼下に大阪平野・淀川そして対岸の北摂の山々眺望 2005.7.27.

「かりがけの道」は平安時代 京から河内・大和を通して熊野へ通った「熊野詣」の幹線道という。



寺集落から見た傍示への道が通る山中とそこにある南山弥生時代住居跡遺跡標識

この山中は淀川を南北軸として東の大和へ結ぶ古代の重要路でなかったか・・・そして、交野はその結節点。「古代 畿内を大和に結ぶ「和鉄の道」がこの交野を通過していた。森の鍛冶工房への鉄塊や製造された鉄器もこの山中を歩き通ったのだろうか・・・



交野山の山中 傍示の里 山麓の寺集落から大和へとつづく古道「かりがけ道」が登ってくる

古代大和への道というと瀬戸内・難波から東へ大和川沿いに河内を通過して大和に入る道ばかりをイメージしていましたが、大陸へ繋がることを考えると若狭・近江・淀川流域から交野・生駒の山裾を河内・大和へ入る道も重要でなかったか・・・

そんなことを考えながら傍示の里の蓮華寺まで歩いて、そこから 古道「かりがけの道」を下って、森集落の北の寺集落に降りてきました。



傍示集落 快慶の阿弥陀如来像がある蓮華寺 2005.7.27.



傍示から狭い尾根の間の谷筋を寺集落に下る古道「かいがけ道」



住吉神社とその横にある「かいがけ道」入り口の道標

寺集落 2005.7.27.

下ってきた寺集落の尾根筋にも数多くの古墳群があり、この地での鍛冶工房が長く営まれるのと符合する。また、さらに北の尾根筋の山裾 倉治の集落には「秦氏」の痕跡があると言われ、南の星田とあわせ、交野の広い地域に渡来人の痕跡があり、森の専用鍛冶工房にも数多くの渡来工人がいたと想像する。



渡来の織姫二神を祭る倉治にある織物神社 2005.7.27.

交野 星田の七夕伝説

河内磐船駅の直ぐ東の森南集落から小さな尾根筋を登って、古代この地を支配し、鍛冶工房を統括して大和王権の成立に関与した肩野物部氏の森古墳群を訪ね、古代の人の足跡をたどって傍示まで行ってかいがけ道を降りてきました。 約3時間の山里を巡る walk。

もう 忘れられているかのようにでしたが、大和王権成立期の前方後円墳がこの山中に埋もれていることを知って感無量。古代の鉄の郷が大和王権と密接に繋がっているとのイメージが益々膨らんだハイキングでした。河内磐船駅の直ぐ東の森南集落から小さな尾根筋を登って、古代この地を支配し、鍛冶工房を統括して大和王権の成立に関与した肩野物部氏の森古墳群を訪ね、古代の人の足跡をたどって傍示まで行ってかいがけ道を降りてきました。

もう 忘れられているかのようにでしたが、大和王権成立期の前方後円墳がこの山中に埋もれていることを知って感無量。古代の鉄の郷が大和王権と密接に繋がっているとのイメージが益々膨らんだハイキングでした。

3. 森製鉄遺跡の資料と出土品 倉治の歴史民俗博物館へ



河内磐船駅周辺から 森集落周辺 2005.7.27.

森古墳群を巡るハイクから再度 森南の集落に戻って、森遺跡の資料探すことにする。

集落で教えてもらった河内磐船駅西の「私市ふれあい館」 交野市役所の私市支所とでも言うべき建物で、森遺跡の情報を色々教えてもらう。

あちこち電話をしてもらって、市役所近くの体育・文化センターの隣の交野市文化財事業団に行けば森遺跡の資料があること また 倉治の歴史民俗資料館が改装オープンしたところで、そこに一部森製鉄遺跡の出土品が展示されていることなど教えてもらう。

交野市のマップを広げて 教えてもらった交野市文化財事業団・倉治の歴史民俗資料館に行って津田駅から帰ることにする。

さきほど歩いた 遺跡・森古墳群などのある山裾と学研都市線を挟んで西側を再度北に向かう交野市市街地 walk である。

交野市文化財事業団で

河内磐船駅から約 30 分程 京阪交野線に沿って枚方の方に行ったところ、図書館・体育・文化センターなどが集まった一角に交野市文化財センターがあり、交野市の埋蔵文化財調査報告書がすべて整理されていた。そして 長年にわたる森遺跡の発掘調査の報告書やそれらをまとめた立派な資料「古代交野の鉄」「古墳時代の鉄製錬・鍛造再現実験記録」などを見せていただき、一番興味のある専用鍛冶工房関係の分冊を数冊分けてもらった。



本当に立派な記録報告が整備されていたのですが、「日本誕生とかかわったこの鉄の森遺跡をなぜ 保存しなかったのだろうか・・・また 簡単な案内板もなく、市民はほとんど森遺跡を知らない」事に疑問を感じました。

観光的には「織り姫・七夕伝説の街 一色」 「鉄にもロマンがあるのに・・・」と。

参考 分けて貰った資料

「古代交野と鉄 」 1998.9 月 交野市教育委員会

「古代交野と鉄 」 2000.3 月 交野市教育委員会

「古墳時代の鉄製錬・鍛造再現実験記録」2002.3 月 交野市教育委員会

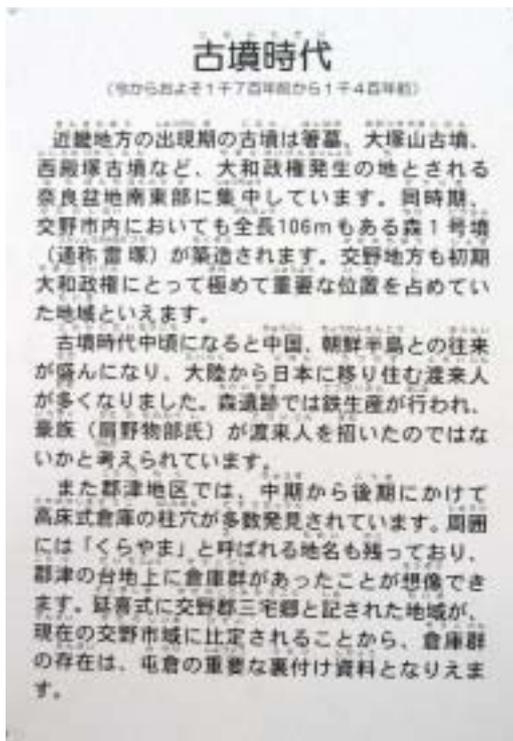
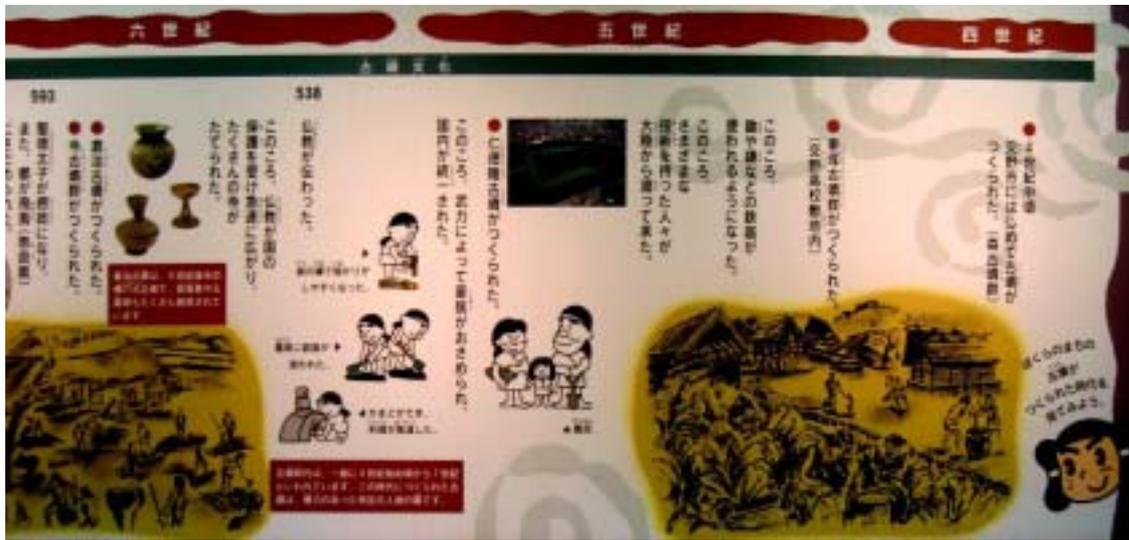
「交野市埋蔵文化財報告書 1990-1 森遺跡 」交野市教育委員会

交野市文化財事業団

歴史民俗資料展示室（交野市立教育文化会館）



交野市の一番北の端 倉治にある教育文化会館にある歴史民俗資料展示室
【古代の交野 常設展示より】



森遺跡

弥生時代～中世

森遺跡は、おもに弥生時代末頃から古墳時代、中世にかけて栄えた大規模な集落遺跡です。

近年森地区周辺の開発が相次ぎ、発掘調査から様々なことがわかってきました。

中でも平成7年から8年にかけて行ったJR河内豊船駅北地区の区画整理事業に伴う発掘調査は、大規模なもので調査区計8カ所、発掘総面積5,390㎡にも及びました。

古墳時代前期、中期から後期にかけては森古墳群、交野車塚古墳群との関わりが注目され、森周辺地の首長が葬られたと考えられます。

またこの遺跡の特徴として、鍛冶専業集団の存在があります。5世紀後半から6世紀全般にわたり、森遺跡内では鍛冶作業が行われ、出土した鉄滓の量の多さから畿内でも有数の鍛冶工房が存在したと思われます。



森遺跡の発掘風景



鍛冶炉復元模型



羽口



鉄滓



一部鍛造された鉄塊



鑄造鉄斧



鉄てい(近くの郡津浜り遺跡より出土)

鍛冶工房に持ち込まれた鉄素材の可能性

もりこふんぐん 森古墳群

昭和55年、若龍小学校の児童が森地区の丘を歩いた時に漆黒や赤の破片を見つけました。交野市教育委員会がこの地区を調べたところ、前方後円墳が4基、円墳が1基、古墳と思われるものが2基見つかりました。この古墳は、大阪府の中でも最も古い時期の古墳で、古墳時代の前期、3世紀の終わりにつくられました。発掘調査は行われていませんが、物部氏の一族、眉野物部氏という豪族の古墳と考えられています。

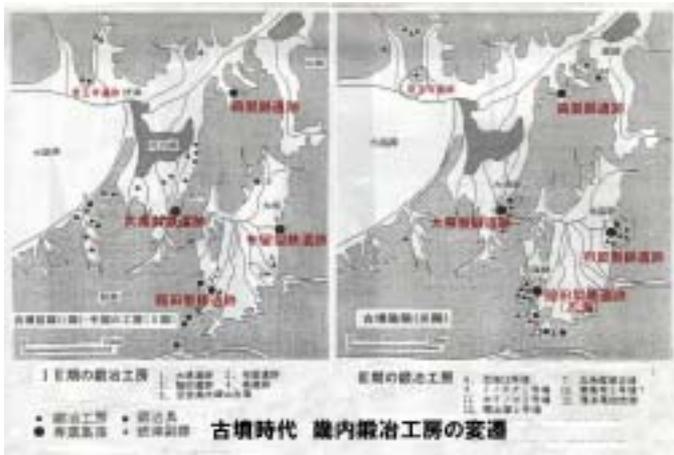


森古墳群の第1号古墳
(露伐古墳)

4. 古代鉄の郷 交野 森界限 walk まとめ



古代肩野 古代の先進鍛冶工房森製鉄遺跡が眠る JR 河内磐船駅前と多数の古墳群がある背後の山並み



大和王権確立に大きな役割を演じた畿内鍛冶工房の変遷と北河内の鍛冶工房森遺跡のあった交野市

5 世紀 大和王権が日本統一を成し遂げて行く過程「鉄」の需要が著しく増大する。ちょうど 鉄製錬が開始される時代でもあるが、まだ朝鮮半島からの鉄素材の供給を受けていた時代でもある。

5 世紀半ば そんな時代に突然 畿内に現れ、大和王権の日本統一に大きな影響を与えた大泉製鉄遺跡をはじめとする畿内の専用鍛冶工房。

何処からか鉄素材の供給を受け、鉄器製造のナショナルセンターとして増大する鉄器需要に対応する。また、数多くの渡来系技術集団を受け入れ、鉄器製造の鍛冶技術を革新すると共に いち早く鉄の製錬をも始めていた可能性がある。

邪馬台国・三輪王権へと大和・九州・出雲を舞台とした記紀神話に多くの人の眼が集まっている一方、その裏で農耕・文化・武力など国力の源泉となった「鉄」が果たした役割にも最近着目する人も多い。

「鉄のロマンが古代日本誕生の謎を解き明かすのではないか・・・」そんな思いで「古代の和鉄の道」をみている。

当初 そんな古代の大規模な専用鍛冶工房集落が北河内 金剛・生駒山系の北端 交野森にもあること知っていたのですが、余り気にかけていませんでした。

播磨風土記 揖保の郡 揖保の里の祭にある記事を眼にして、具体的に

「漢人・渡来人の鍛冶技術集団」

「鉄の国 出雲・西播磨」

そして北河内「茨田（淀川） 枚方の里」と古代鉄の key word が幾つも含まれている。

「これは花田氏の講演で聞いた北河内交野の森製鉄遺跡 大和から西播磨・出雲 そして朝鮮半島への和鉄の道が見える」のにビックリ。

古代鉄のロマンの謎のヒントがあるかもしれないとこの北河内交野の森製鉄遺跡界隈 walk に出かけてきました。

播磨風土記 揖保の郡 揖保の里の祭

佐比と名づけたわけは出雲の大神が神尾山におられた。この神は出雲の国の人でここを通り過ぎるものがあると十人のうち五人をとり殺し、五人のうち三人を殺した。

そこで出雲の国の人達は佐比(鋤)を作ってこの岡に祭った。だがどうしても快く受納されなかった。

そうなったわけは比古神(男神)が先に来たが、比売神(女神)が後になって来たので、この男神はここによく鎮まることができずに立ち去ってしまった。

そんなわけで女神は怨み怒っているのである。

そうゆうことがあって後 河内国の茨田の郡の枚方の里の漢人がやってきて、この山の付近に住んでこれをうやまい祭った。

そこでどうやらわずかに御心をやわらげ静めることが出来た。この神がおられるので名づけて神尾山という。また 佐比を作って祭った所をすなわち佐比の岡とよぶ。

そして、この交野 森の里に来て、残念ながら森製鉄遺跡・古代の大鍛冶工房は今 JR 河内磐船駅南北の駅前ロータリーになってその痕跡も無し。でも、駅から東に広がる生駒・金剛山系北端の丘陵地に広がる森南集落界隈からは広大な大阪・北河内の平野が遠望され、山裾には里山集落の風景が広がり、背後の山中には古代大和への道・そして 森製鉄遺跡と関係したと考えられるこの地の大豪族の古墳群が尾根の林の中に眠り、古代に思いを馳せるには十分でした。

そして、古代この地を支配した豪族は大和王権の一翼を担った鉄の物部一族の「肩野物野部氏」。

そして、山の尾根筋にはこの一族の首長の墓と思われる 4 世紀半ばの森古墳群があり、そこには卑弥呼の墓と黙される「箸墓古墳」と同じ初期前方後円墳の形式を色濃している。



尾根筋の林の中に埋まる 森古墳群 (2) 2005.7.27.

誰も入らぬ尾根筋の細い道の奥に静かに眠る大きな前方後円墳 鉄の首長が大和王権と強く結びついていること この山里を和鉄の道が大和へ通じていると感じました。

また、交野市文化事業団で分けてもらった立派な森遺跡の報告書にはこの肩野物部氏と吉備・津山地方久米・誕生川との結びつきが示されていました。

この吉備もまた鉄の国 日本での鉄製錬を始めた候補地の一つで大蔵池南製鉄遺跡(6 世紀後半)などがある。物部氏の足跡はこの他 九州・東国にもあるが、出雲から吉備・西播磨・河内・大和へと続く道は 九州を除けば まさに大陸・朝鮮半島から大和へ続く和鉄の道・渡来人の道 そして 大和の初期三輪王権を作り

上げた豪族連合の主要国でもある。

和鉄の道から見た日本誕生のドラマが見え隠れする面白い一日でした。

それにしても、交野市の街では 渡来人の里としての PR は行き届いているものの森製鉄遺跡の存在 鉄の里としての役割は全く知られていない。(もっとも 森製鉄遺跡発掘の一連の調査報告書は本当に立派なものである)

「産業の米 鉄」といわれるが まさに「日本誕生を担った鉄」が古代この交野森の集落から各地に運ばれていった。

せめて 古代の里ハイキングの出発点 河内磐船駅その下に古代 日本誕生の役割を担った鉄の里 大和王権の大鍛冶工房が眠ることの歴史案内板ぐらいほしいものである。

2005. 7.27. 学研都市線車窓から交野の里を振り返りながら

Mutsu Nakanishi



ロマンあふれる交野ヶ原の七夕伝説

<http://www.kansai-gakken.com/wa/20.html>

都市機構関西学研本部発行情報誌“Wa” Wa20.H15.5 より整理

織姫星と彦星が天の川で年に一度の逢瀬を楽しむという七夕。

学研都市の交野ヶ原には星田、星ヶ丘、星の森など、星にちなんだ地名が多く、

七夕伝説が今も語り継がれています。星に願いをこめて、天野川流域の星降る里を訪ねてみましょう。

天野川を銀河に見立てる

古来より枚方市・交野市の地域は、交野ヶ原と呼ばれていました。東は生駒山系から続く山並が連なり、中央部には長尾丘陵、交野台地、香里丘陵が広がり、その間を生駒山系に源を發した天野川が西流して、西の淀川に注いでいます。

古代 淀川は枚方附近まで入江となっており大和に入るには哮ヶ峰の麓を流れる天の川を遡りつつ、大和に至るのが至便であったと考えられます。

交野ヶ原を流れる天野川は、白砂に覆われた美しい川で、天上の銀河を想わせるところから、“あまのかわ”と呼ばれています。

その由来により、京阪枚方市駅から近い天野川の下流には「鵜（かささぎ）橋」「天津（あまつ）橋」という天の川にちなんだ名前の橋が架けられ、七夕伝説が語り継がれてきました。

中国古代の七夕伝説によると、カササギは天の川に翼を広げて橋となり織女と牽牛を会わせたとあり、「天津橋」は天の港という意味で、舟で渡って、二人は出会うとあります。どちらも現在は車の通行量の多い橋ですが、織女と牽牛やカササギのレリーフなどがあり、「天津橋」には夜になれば銀河が浮かび上がる楽しい仕掛けもあります。少し上流に架かる「逢合（あいあい）橋」は、橋そのものは何の変哲もない橋ですが、兩岸には遊歩道があり、散歩におすすめです。

織姫様を祀る機物神社

交野ヶ原はその昔、動植物が生息する原野で、桓武天皇をはじめ、数多くの宮廷人が訪れて四季折々の自然を愛で、狩に興じました。「狩り暮らし機女（たなばた つめ）に宿からむ天の河原に我は来にけり」（狩をして日が暮れてしまったので、今夜は織女の家泊まろうよ。天の河原に来てしまったのだから）と『古今和歌集』や『伊勢物語』に詠まれている在原業平の歌はつとに有名です。

織女は、JR学研都市線津田駅から約800m、交野市倉治にある機物（はたもの）神社に祀られています。

5～6世紀頃、養蚕・はたおりの技術を持った秦氏が渡米して祀った秦者（はたもの）の社が、七夕伝説と結びついたようです。

昭和54年に7月7日の七夕まつりが復活され、境内にはたくさんの笹竹に願いごとを託した五色の短冊が飾られます。

前日の宵宮から夜店なども出て賑わい、本宮には神輿が出て、笹にはお祓い、祈願の後、深夜に天野川に流されます。

天野川をはさんで、機物神社と対称の位置の中山観音寺跡に、彦星と伝えられる「牛石」（牽牛石）があります。

現在、枚方の香里園団地の観音山公園になっている所で、その高台からの眺望は一見の価値があります。

星が降ったという星田妙見宮

JR学研都市線星田駅から南東へ歩いて約15分の所にある星田妙見宮。星田は新興住宅地ですが、妙見宮は鬱蒼とした巨木に



包まれた別世界です。120 段余りの石段を登りきると拝殿に到着。

妙見宮は嵯峨天皇の時代、弘法大師が修行をしている時、3 ヲ所に七曜星（北斗七星）が降ったと伝えられる内の 1 ヲ所で、太師が山頂の岩を靈石として七曜星を祀ったのが始まりといわれています。

現在も本殿はなく、山頂の二つの巨大な自然石を御神体として崇めています。ここでも平成 8 年に星の三大祭り「星祭り・七夕祭り・星降り祭り」が復活されました。

物部氏の始祖ニギハヤヒが天下った伝説の磐船神社 インターネットより採取

天野川の上流の磐船（いわふね）溪谷には物部氏の祖先神、饒速日命（ニギハヤノミコト）が天上より天の磐船で降臨したと伝わる磐船神社があります。磐船神社のご神体は船型をした高さ 12m もある巨岩で饒速日命（にぎはやひのみこと）がこの樟船にのって天下ったといいます。また、神話伝説の「哮ヶ峰(写真右)」は「鮎返しの滝」と対峙してそびえたっています。このような神話の舞台が磐船であります。

また淀川を主要交通路として古代には 枚方から天野川を通過してここ磐船から大和へ至る道が主要道。

肩野物部氏がこの交通の要衝を本拠地として抑えていました。



交野市倉知 織り姫を祭る織物神社 2005.7.27.



饒速日山だとされる哮ヶ峰(たけるがみね) 磐船神社の御神体石=天磐船石 磐船神社の社前・旧道
(インターネットより採取)